平成30年度
教育事業　報告書

なすかしの森
セカンドスクール

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立那須甲子青少年自然の家

１．事業の概要

（１） 趣旨

① 当施設がもつ教育環境・教育資源を活用して、学校ではできない教科学習や総合的な学習、特別活動などを体験的な学びながら、基本的な人間関係や学習力・生活力の育成を図る。

② 教師として、学習指導の工夫と改善、児童の成長を確かめる場、学級経営を見直す場、更に教師としての資質、能力を高める場とする。

③ 子供と離れて過ごす保護者にとっては、我が子に対する愛情を確認する場、自らの子育てを再確認する場とする。

④ 教職等を目指す大学生に臨床的･実践的な教育臨床の場を提供し、自己の教育観・職業観の高揚を図るとともに社会的自立の一助とする。

⑤ 新学習指導要領の教育課程に沿ったプログラムを提供し実施することで、今後の当施設での学校向けのプログラムの成果及び検証を行う場とする。

（２） 参加校、参加人数、期間

西郷村立小学校４校、白河市立小学校１校、棚倉町立小学校３校、合わせて８校の５年生計２９３名の児童が、平成３０年１０月中旬～１１月中旬まで当施設を利用して、３泊４日～４泊５日の日程で参加した。

実　施　期　間	参　加　校	学級数・人数
１０月１５日（月）～１０月１９日（金）	棚倉町立高野小学校５年生	１学級・１１名
１０月２３日（火）～１０月２６日（金）	棚倉町立近津小学校５年生	１学級・２４名
１０月２９日（月）～１１月　２日（金）	西郷村立小田倉小学校５年生	３学級・７１名
１１月　５日（月）～１１月　９日（金）	西郷村立熊倉小学校５年生	２学級・６１名
１１月　５日（月）～１１月　９日（金）	西郷村立羽太小学校５年生	１学級・１２名
１１月　６日（火）～１１月　９日（金）	棚倉町立社川小学校５年生	１学級・２０名
１１月１２日（月）～１１月１６日（金）	白河市立表郷小学校５年生	２学級・５９名
１１月１２日（月）～１１月１６日（金）	西郷村立米小学校５年生	２学級・３５名

２　事業の実際

実施日程（例）

時間		１日目	２日目	３日目	４日目	５日目
6:00			起床・清掃			
7:00			朝のつどい			
7:20			朝食（レストラン）			
8:40	スクールタイム		朝の会			
8:50	スクールタイム	出発式	理科 【沢歩きハイク】 水溶性の種子、泡の種子、石・岩の種子、流れの速さ ※関連「流れる水のはたらき」	家庭科 【カレー作り】 準備→調理→試食→片付け ※関連「ごはんとみそ汁を作ろう」	総合 【もちつき体験】 自分たちで栽培したもち米を使ってもちつき体験をする。	総合 【もちつきまとめ】
9:40	スクールタイム	学活 ☆出会いのつどい				算数 「つないだ線を切って」
10:35	スクールタイム	☆オリエンテーション・ 道徳 「あいさつ・マナー」				国語 「百年後のふるさとを守る」
11:25	スクールタイム					道徳 「感謝の手紙を書こう」
12:10	スクールタイム	昼食（レストラン）			昼食（レストラン）	
13:10	スクールタイム	国語 「同じ読み方の漢字」	理科 「流れる水のはたらき」のまとめ	国語 「俳句づくり」	国語 「百年後のふるさとを守る」	学活 ☆別れのつどい
14:00	スクールタイム	理科 「流れる水のはたらき」	家庭科 「ごはんとみそ汁を作ろう」	総合 【もちつき の話し合い】	学活 ＜キャンドルファイヤーの話し合い＞	
14:45	スクールタイム	帰りの会				帰校式
15:00	なすかしの森タイム	なすかしの森タイム①＜宿題・自主学習＞				
	なすかしの森タイム			（洗濯）		
17:00	なすかしの森タイム	夕べのつどい				
17:15	なすかしの森タイム	夕食（レストラン）				
18:00	なすかしの森タイム	なすかしの森タイム②				
	なすかしの森タイム	計画づくり	レクリエーション	ナイトハイク	キャンドルファイヤー	
19:30	なすかしの森タイム	入浴				
20:00	なすかしの森タイム	ふりかえり				
21:00	なすかしの森タイム	就寝				

３　意識調査の結果と考察

参加児童にとって、どのような教育的効果があるのか測定するために意識調査を行った。

調査指標は、「基本的な生活習慣」に加えて、次期学習指導要領の柱である「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」という大枠で、合計２２項目の質問を４件法で作成した。質問項目については、当機構青少年教育研究センターの青木康太朗研究員の指導・助言をいただき当施設独自に作成したものである。なお、「基本的な生活習慣」のみ７項目で、それ以外は５項目の質問指標である。

意識調査の分析には、SPSS（バージョン 25）を用い、対応があるｔ検定を行った。質問項目ごとに４段階評価で求めるもので、評価はそれぞれ「まったくあてはまらない」（1 点）から「とてもよくあてはまる」（4 点）の４段階で得点化した。グラフは、得点の合計値の平均を示した。

調査日は、各学校の日程で、「事前」については初日の出会いのつどい、「事後」については最終日の別れのつどいに行った。

【質問項目】

【基本的な生活習慣】

1.あいさつは、自分からはっきりと言える。

2.人の話をきちんと聞くことができる。

3.時間を守って、生活することができる。

4.身の周りの整理・整頓・清掃ができる。

5.バランス良く、食事をとることができる。

6.「早寝・早起き」ができる。

7.朝ごはんを必ず食べる。

【主体的な学び】

8.学校の学習以外でも、興味関心をもって、取り組むことができる。

9.計画を立てて、生活（学習）することができる。

10.わからないことは、そのままにしないで調べることができる。

11.生活（学習）の中で、問題点や課題を見つけることができる。

12.生活（学習）をふり返り、次の生活（学習）をより良くしようとすることができる。

【対話的な学び】

13.自分の考えや意見を伝える（発表する）ことができる。

14.相手の意見を聞いて、自分の考えに取り入れることができる。

15.仲間と意見を交換しながら、学んだ内容をまとめることができる。

16.身の周りの人と相談して、生活（学習）をより良くしようとする。

17.学んだことを自分の言葉で、相手に説明することができる。

【深い学び】

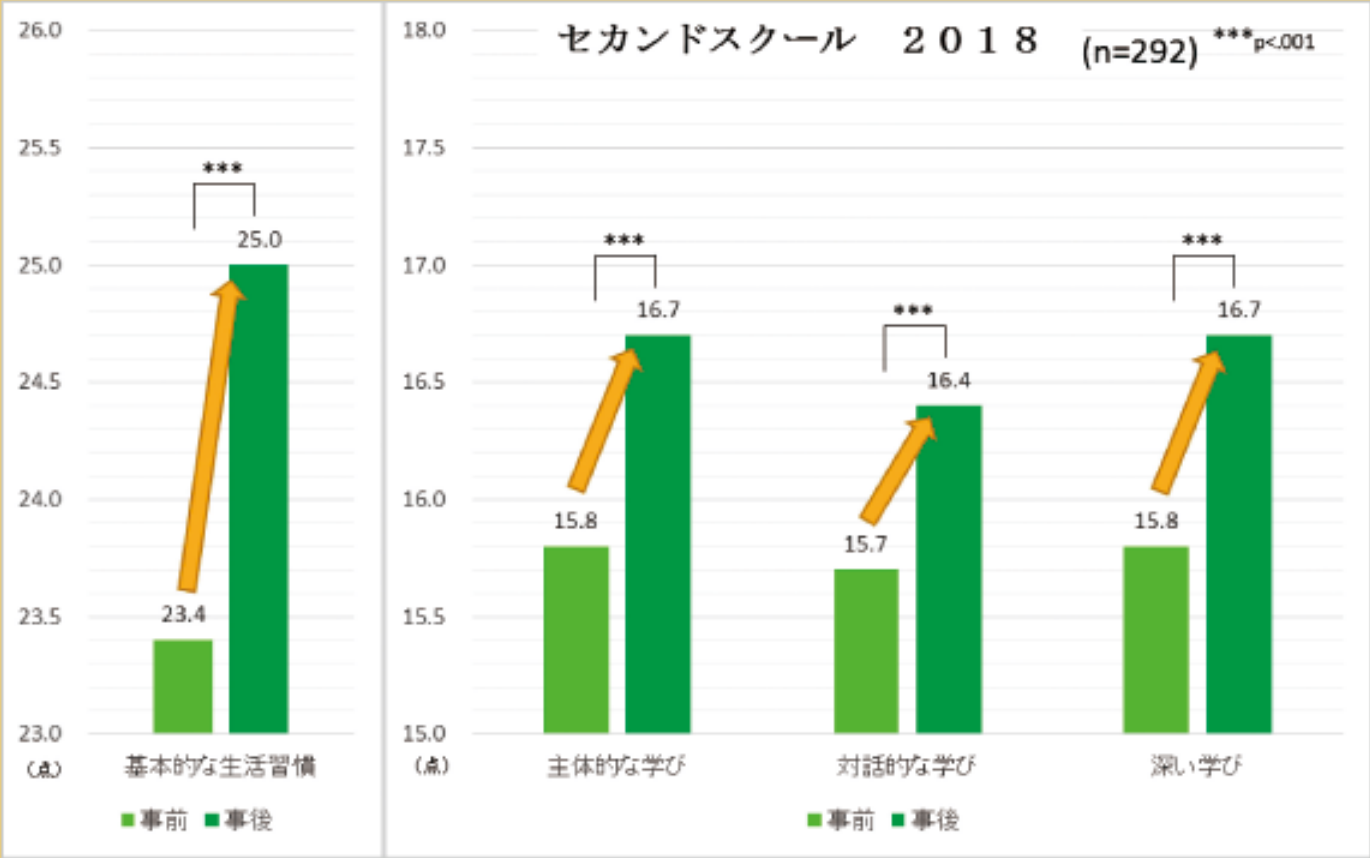
18.学んだことや調べてわかったことから、自分の生活（学習）に役立てようとしている。

19.学んだことをもとに、自分の考えを深めることができる。

20.学んだことをもとに、新しい課題を見つけることができる。

21.学んだことをもとに、課題を解決することができる。

22.学校以外でも、学んだことを生かして新しいことに取り組むことができる。



【基本的な生活習慣】

事前から事後にかけて 1.6 ポイント向上し、統計的な有意差が認められた。(t=-8.009,p<.001) 標準時間での集団生活を行なうセカンドスクールは、生活習慣の定着や改善に効果的であると言える。

今後は、効果が維持できるような仕掛けとして、事業後についても担任の先生や家庭と連携した取組を行なっていくことも検討していきたい。

【主体的な学び】

事前から事後にかけて 0.9 ポイント向上し、統計的な有意差が認められた。(t=-6.615,p<.001) スクールタイムとなすかしの森タイムそれぞれにおいて、担任の先生とスタッフがめあてを共有し、子供たちが自分で考えて主体的に行動するよう取り組んだことが要因であると考える。

【対話的な学び】

事前から事後にかけて 0.7 ポイント向上し、統計的な有意差が認められた。(t=-5.064,p<.001)

今後は、「対話的な学び」を実現していくために、担任の先生と連携をさらに深め、授業中だけでなく、なすかしの森タイムの時間にも、効果的な対話の時間を増やすなどの工夫が必要である。

【深い学び】

事前から事後にかけて 0.9 ポイント向上し、統計的な有意差が認められた。(t=-5.648,p<.001)

今後は、「深い学び」につながるよう、スクールタイムとなすかしの森タイムの取組をつなげ、個人の考えを広め深められるような工夫をしていく必要がある。

【総括】

事前から事後について、各質問項目のポイントも向上しており、統計的な有意差も認められているため、この事業は「児童の学び」に効果があると言える。事業終了後に、各学校ごとに評価会を行なった。聞き取り調査の結果、様々な面での児童の成長はもちろんであるが、保護者自身も子供たちの成長を感じる意見が数多くあった。また、担任の先生は、児童の新たな一面を発見したり教諭としての新たな気づきや成長ができる充実した事業であるという意見が出ていた。次年度以降は、事前から事後にかけて成長した「児童の学び」の効果を事業終了後も更に向上できるように学校と連携した取組を行なっていくことを検討していきたい。

４　「セカンドスクール」をふりかえって

①　児童アンケートから

・　今の自分よりも１UP できたし、普段話さない友達とも仲よくできた。
・　自立もできたし、仲間と助け合う力が成長したと思う。
・　仲間との生活体験が思い出深く、絆を深めることができた。
・　生活面では、早寝、早起き、朝ごはんがしっかりできた。
・　次は何をするか、そのためにどんな準備をすればよいかを考えて行動する意識が芽生えた。
・　自分の事を自分で出来ないこともあったけれども、言われなくてもできるようになった。
・　今まであまり親しくなかった人と、たくさんおはなしができた。

・　自分の成長を感じることができた。
・　宿題をやる集中力があがった。
・　授業では、前よりもたくさん発表ができた。
・　実際の川に行って、理科の勉強がしっかりできた。
・　自然の家でしかできない学習活動があり、とても勉強になった。
・　大人対子供のドッジボールや、焼き板作り体験が楽しかった。
・　スタッフの先生は、私が考えたことをすごくほめてくれて、やる気が出て楽しかった。
・　大学生との新しい出会いや自然の豊かさを学ぶことができた。
・　大学生と一緒にたくさん話をしたり、勉強したりしていろいろな事を学ぶことができた。
・　親元を離れてドキドキの生活、最後は帰りたくないけど、親に会いたい気持ちで複雑だった。
・　セカンドスクールの前に家族が心配してくれて、うれしかった。
・　いつもいる家族がいないと考えるとさびしくなった。
・　親のいろいろな大変さを知ったり、学校ではできないことができたりした。

②　保護者アンケートから

・　ノーメディアの中で、多くの体験活動を行い、とても良い経験であったと思う。
・　大人でもコミュニケーションのとり方が分からない人が多い今、社会人になる前にこのような機会がもっとあればいいと思う。
・　非日常な体験をしてきたことで、やってきたことを意気揚々と話す姿が見られ、多少自信がついたように感じられる。
・　帰ってきてから、涙をいっぱい目にためて子供が話してくれた姿にすごく成長を感じた。
・　私自身、不安ばかりでしたが、帰ってきた時の顔を見て、行かせて良かったと感じた。
・　帰宅後、子供のバックを開けたら、きちんと仕分けがされてあり、自分のことは自分でできる力が身についたのかなと感心した。

・　帰ってきて、元気な姿を確認できてほっとした。
・　帰ってきた時には、少し大人びた顔つきに見えた。
・　帰ってきてから「お母さん。いつもありがとう。」と言ってくれ、とても成長を感じた。
・　期待通り、子供にとっては、少しは親のありがたみが分かってくれたのではないか。
・　これから子育てへの考え、家族のあり方をゆっくり考えながら日々生活していきたい。
・　４日間顔を合わせないのは生まれて初めてだったので、子供の存在の大きさを実感した。
・　子供のいない生活は不思議で、食事を作りすぎてしまった。
・　家庭では、スケジュール表を見て今頃子供たちは何をしているのかなど話し合った。

③ 教員アンケートから

- セカンドスクールを通して、よりよい人間関係を作る大切さを感じることができた。
- 子供たちは、家族のありがたみや感謝の心を感じることができたと思う。
- 自分や他人を見つめて、相手を思いやる心の大切さを改めて感じることができた。
- グループ活動で、子供たちなりにフォローし合い、無事に乗り切ったことがうれしかった。
- 協力したり知恵を出し合ったりすることで、チーム力が高まった。
- 学校ではできない活動ができ、子供達は大満足だった。
- 一人一人の新たな良さの発見にもつながった。
- 野外活動の様々な方法について知ることができた。
- 担任として、児童の新たな一面を発見することができ、いっそう愛着を増すことになった。

- セカンドスクールに参加して、曖昧だった理想の教師像が少しずつ形になってきた。
- 教育支援スタッフには、算数などで一人一人が苦手分野を克服することを助けてもらった。
- なすかしの森タイムや就寝から起床、登校まで子供達に常についてくださり安心だった。
- 活動プログラムの時など、熱心に児童と関わってくださり有り難かったです。
- 児童から「学んだことを生かす」という言葉がよく聞かれ、成長を感じる学習となった。

④ 教育支援スタッフレポートから

- 子供たちの先生として過ごした５日間は、非常に新鮮な日々だった。この短い期間で、支援スタッフ同士や子供たちと信頼関係を築き、最終日にはみんなで涙を流して別れを惜しむことができるほどの絆が作り上げられたことに驚きと感動を覚えた。５日間で子供たちの成長を近くで見ることができ、教員を目指す身として「指導する」「見守る」等の教師としてのあり方や教師を始めとする支援者の立場の大切さを考える良い機会になった。
- 自分は昨年参加して、とても充実した日々を過ごすことができた。これをもう一度味わいたいと思い、今回参加させてもらったが、やはり内容の濃い充実した４日間になり、子供たちの成長のそばにいれてよかった。今回も子供たちと近い距離で関わっていくことで、大学生の友人と関わっているときの自分とは違い、新鮮な気持ちで臨めたこと、子供たちの純粋な笑顔が見られたこと、充実した時間を過ごすことができた。自分は、来年度から企業人として社会に出て行くが、この経験を生かしてしっかりと人生を歩んでいきたいと思う。
- セカンドスクールを終えて強く感じることは、「経験」から学ぶことは多いということである。机上の空論であったことが、経験を通して納得することや難しさが身をもって感じることができる。経験することは次のステップアップにも繋がる。やってみなければ分からないことだらけである。来年もなすかしの森で子供たちの生活や成長の支援をしていきたい。
- 私はセカンドスクールで、教員を目指す上での大きな経験を得ることができた。それは、子供との関わり方、教員としてのチームワークの大切さ、効率よく行動することの大切さなど、セカンドスクールの間だけではなく大学生活を送る上でも必要な力であると感じる。野外での活動も多く、安全面での配慮の仕方や言葉かけ、また、その時に起こったトラブルを自分たちで解決することの大変さを学ぶことができた。そのような時、スタッフ同士で協力・連携することがどれほど大切なことかを知ることができ、これからの大学生活で模擬授業を行う際や支援方法を考える際、協力・連携することの大切さを生かしていきたいと考える。

5　参加校における「教科等に関連付けた活動体験プログラム」に関連したプログラムの実施状況

【第５学年の教育課程に基づく】

教科／参加校	国語	理科	社会	総合	体育	図工	家庭科
小田倉小		流れる水のはたらき			「体力を高める運動」持久走		
熊倉小		流れる水のはたらき		餅つき 豚汁づくり	「体力を高める運動」持久走	自然の中で感じたことを（焼き板づくり）	
米　小		流れる水のはたらき（沢歩きハイキング）		外国の文化（外国語）		自然の中で感じたことを（焼き板づくり）	「食べて元気に」（ピザづくり） 「じょうずに使おうお金と物」（買い物）
羽太小	「日常を十七音で」（俳句づくり）	流れる水のはたらき	私たちの生活と森林			自然の中で感じたことを（木工クラフト）	「食べて元気に」（ピザづくり）
表郷小		流れる水のはたらき	私たちの生活と森林			自然の中で感じたことを（焼き板づくり）	
近津小		流れる水のはたらき	私たちの生活と森林			自然の中で感じたことを（焼き板づくり）	
社川小		流れる水のはたらき	私たちの生活と森林				
高野小		流れる水のはたらき			「体力を高める運動」（剣岳ハイキング）	自然の中で感じたことを（焼き板づくり）	「食べて元気に」（山菜炊き込みご飯づくり）

6　セカンドスクールの成果と課題

【成果】

○参加児童は、当施設がもつ教育環境や資源を活用して、学校ではできない教科学習や総合的な学習、特別活動などを体験的に学びながら、基本的な人間関係や学習力・生活力の育成を図ることができた。

○担当教諭は、プログラム作成の段階から、教職員経験のある企画指導専門職と打合せを重ね、児童実態やねらいに沿った授業づくりを連携して行い、「主体的・対話的な深い学び」を実践することができた。

○保護者は、我が子への愛情を確認し、長期宿泊活動での子供の成長を感じる機会となった。

○教育支援スタッフは、児童との関わりや他の支援スタッフとの関わり合いから、自己の教育観・職業観の高揚を図るとともに社会的自立の一助とすることができた。

○当施設として、参加校と連携した「教科等に関連づけた体験活動プログラム」の実践により、「基本的な生活習慣」「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」での教育的効果を確認することができた。

【課題】

●参加児童の中には、様々な支援が必要な児童が増えているので、当施設における指導体制や安全面に配慮する必要がある。

●2020 年度より新学習指導要領が全面実施となり、授業時数の確保の面でより一層のカリキュラムマネジメントが必要となる。学校としては、当施設での活動のメリットや「主体的・対話的な深い学び」を意識した指導法の研修機会が必要となる。

●保護者に対して、セカンドスクール活動中の様子などの情報を発信する必要がある。（各学校の HP を活用）

●教育支援スタッフにおいては、事前指導を更に充実させ意識の向上を図るとともに各大学にセカンドスクールの教育的効果を発信し、人員の確保を工夫する必要がある。

●当施設としては、教科単元の課題の把握、追究、解決、新たな課題のどこの部分を当施設で実施するか検討することが重要となる。そのために、学びの流れ（思考の流れ）を意識した単元の入れ替えについて、担任との事前の打ち合わせを充分に行うことが必要になる。

国立那須甲子青少年自然の家

なすかしの森　セカンドスクール

お問い合わせ先

独立行政法人　国立青少年教育振興機構

国立那須甲子青少年自然の家

〒961-8071　福島県西白河郡西郷村大字真船字村火 6-1

TEL0248-36-2331　FAX0248-36-2150

http://nasukashi.niye.go.jp